

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	福祉作業所改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	3	○
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	障がい福祉課			
施策	社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	星野 里香			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③令和3年度に取組む改革・改善内容	新型コロナウイルス感染症対策として友和園のトイレの自動水洗化、自動照明化工事を行う。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	友和園利用者	意図(対象をどうするのか)	新型コロナウイルス感染症対策を行うことにより適切な活動環境を整備する
②事務事業の概要	新型コロナウイルス感染症対策としてトイレの自動水洗化、自動照明化の工事を行う			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新型コロナウイルス感染症への対応が求められる中で施設内での感染リスクをできるだけ小さくする必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	園の運営上の要望を考慮しながら設計委託を実施した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	改修工事進捗率	-	-	50%	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	0	1,474	金額(千円)	内容		4,524
国支出金(千円)		1,380	1,474	設計委託		4,498
県支出金(千円)		0				
市債その他(千円)		0				
一般財源(千円)		94				26

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	設計が終了したので園の運営上の要望を考慮しながら工事を進める必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	友和園、設計会社、建築住宅課など関係者間で連絡調整を行い園の運営上の要望なども考慮しながら改修設計を実施する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	改修工事の設計委託	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	改修工事の設計委託を実施した	6,524	6,524	当初	0	R1からの繰越	0
				R1⇒R2繰越	0		
③達成状況	完了			補正	6,524	現年分	1,474
				流用・充当	0		
④未完了・非着手の理由		令和3年度への繰越額(単位:千円)				4,524	

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	自立支援給付事業に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	4	
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	障がい福祉課			
施策	社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	星野 里香			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

① 前回の評価で掲げた内容	障害者差別解消法を基に、障がいのある方々の日常生活活動を支えていくため、適切な障害福祉サービス提供を継続する。障がい者の自立支援の観点から、就労に関する障害福祉サービスの提供を強化し、多くの障がい者が社会参加できるようにする。	③ 令和3年度に取組む改革・改善内容	障害者差別解消法を基に、障がいのある方々の日常生活活動を支えていくため、適切な障害福祉サービス提供を継続する。障がい者の自立支援の観点から、就労に関する障害福祉サービスの提供を強化し、多くの障がい者が社会参加できるようにする。
② ①に基づく取組み結果	障がい者(児)へ適切な障害福祉サービスの提供を行い、社会参加の推進を図った。		

II 事務事業の目的・概要

① 目的	対象	身体・知的・精神障がい者、難病患者及び障がい児	意図(対象をどうするのか)	安心・安全な日常生活活動を支えるため必要なサービスを提供する。
② 事務事業の概要	対象者の一人ひとりに適切な自立支援給付、自立支援医療費等の給付決定と支払等を行う。			
③ 環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	サービス提供にあたり相談支援事業所作成のサービス利用計画に基づき支給決定を行うことが義務付けられ、個々に対し専門的な視点から適切なサービス提供に結びつけるものとなった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

① 令和2年度の事業の成果	障害者(児)へ適切なサービスを提供することにより、就労訓練サービス等の利用者が増加し、多くの障がい者の社会参加への推進を図った。						
② 成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	障害福祉サービス等利用延人員	7,414	8,312	8,682	人	業務取得
	ii	自立支援医療費(更生医療)支払決定人員	116	125	137	人	業務取得
	iii	補装具支給件数	149	171	147	件	業務取得
③ 事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	1,822,075	1,941,110	金額(千円)	内容	2,163,320		
国支出金(千円)	907,492	962,912	1,485,186	介護給付・訓練等給付費	1,510,110		
県支出金(千円)	453,746	481,456	76,260	自立支援医療費(更生医療)	133,307		
市債その他(千円)	0	0	14,903	補装具費	18,889		
一般財源(千円)	460,837	496,742	340,144	障がい児通所給付費	501,014		

IV 評価・検討

① 課題(目的に対する現状など)	依然利用者が増加している。これにより施設入所待機者が増加し、またヘルパー等支援者が不足し、利用者には支障が及ぶことが懸念される。					
② 評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③ 上記評価の理由	計画相談支援を活用し、個々の生活環境を踏まえた適正なサービス利用が出来るか継続して検証していく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

① 令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
② 計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③ 達成状況		補正			現年分	
④ 未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	小規模作業所等の支援に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	4	
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	障がい福祉課			
施策	社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	星野 里香			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業所の生産性の確保や地域活動支援センター事業の活動内容の周知方法について助言を行い、引き続き運営補助を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	事業所の生産性の確保や地域活動支援センター事業の活動内容の周知方法について助言を行い、引き続き運営補助を行う。
②①に基づく取組み結果	法定事業所(就労支援系施設)への移行が進んでいるが、必要な事業所であることから、事業所に対して生産活動における生産性の確保について助言等を行うとともに、運営補助を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	心身障がい者小規模作業所(地域活動支援センターⅢ型を含む。)	意図(対象をどうするのか)	地域に密着した小規模作業所(地域活動支援センターⅢ型を含む)の運営の安定化を図る。
②事務事業の概要	創作活動や生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等に取り組む事業所に対して助成を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地域活動支援センターⅢ型から法定事業所である就労支援系施設への移行が増加しているが、一定程度の需要は存在し続けるものと思われる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	地域活動支援センターⅢ型事業所の円滑な事業運営を図るため、地域活動支援センターⅢ型を運営する事業者に対し、補助金を交付することにより、利用者の活動の場を確保した。(R3.3末現在、施設数3、利用者人数29人)。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	知的障がい者数	719	744	762	人	業務取得(手帳所持者数)
	ii	精神障がい者数	2,732	3,002	3,267	人	業務取得(手帳所持者数+自立支援所持者数)
	iii	利用者	28	33	28	人	業務取得(年度末利用者数)
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	12,151	12,755	金額(千円)		内容	16,120	
国支出金(千円)	397	428	12,755		地域活動支援センターⅢ型運営費補助金	442	
県支出金(千円)	618	634				641	
市債その他(千円)	0	0					
一般財源(千円)	11,136	11,693				15,037	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	利用者は減少傾向にあるが、障がい者の社会参加等を促進するためには必要な事業所であることから、事業を継続するための支援が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	障害福祉サービスの利用が難しい方等のニーズに応えるため、事業を検証し継続する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	友和園空調設備改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	4	○
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	障がい福祉課			
施策	社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	星野 里香			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	老朽化した空調設備の改修工事を行う。	③令和3年度に取り組む改革・改善内容
②①に基づく取り組み結果	園の運営を維持しながら効率的に空調設備の改修工事を実施することができた。	

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	友和園利用者	意図(対象をどうするのか)	作業等の活動場所として適切な環境を整備する
②事務事業の概要	老朽化した空調設備の更新を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	設置後20年以上が経過し、故障も多いことから、障がい者の活動場所として適切な環境を整備するため。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	園の運営を維持しながら効率的に空調設備の改修工事を実施することができた。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	改修工事進捗率	-	50	100	% 業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算	
事業費(千円)	756	6,380	金額(千円)	内容	0	
国支出金(千円)	0	0	6,380	改修工事		
県支出金(千円)	0	0				
市債その他(千円)	0	0				
一般財源(千円)	756	6,380				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	休園することなく、効率的に工事を実施し、事業を完了した。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	友和園、施工会社、建築住宅課と綿密な連絡・調整を行いサービスを提供しながら改修工事を実施する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	空調設備の改修工事	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	空調設備の改修工事を実施した	7,570	7,570	当初	7,570	6,380	R1からの繰越
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由		令和3年度への繰越額(単位:千円)				0	